令和８年５月作成

川崎市洪水ハザードマップ
高津区版

「意識と準備が命を守る！」

洪水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨によって河川が
氾濫した場合の、洪水浸水想定区域や避難場所を示したものです。

川崎市 KAWASAKI CITY

我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう！！

自宅の災害リスク

● 地図を確認して、該当するところに○印を記入しましょう

	浸水無し	0.5m未満	0.5～3.0m	3.0～5.0m	5.0～10.0m	10.0～20.0m
洪水浸水想定区域（多摩川水系）						
洪水浸水想定区域（鶴見川水系）						
土砂災害（特別）警戒区域						

※多摩区においては、鶴見川水系による浸水は想定されていません。

避難方法

● 「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう

□ 屋内待機　□ 立ち退き避難　□ 垂直避難

避難場所と避難経路

● 避難方法が決まったら、避難場所と避難経路を確認しましょう

〈 避難場所1 〉

【　　】

〈 避難場所2 〉

【　　】

〈 避難場所3 〉

【　　】

※避難場所と避難経路はそれぞれ複数決め、必要に応じて地図に書き込みましょう

非常持出品

● 非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう

〈 保管場所 〉

【　　】

みんなの約束

● 家族やご近所での約束事を記入しましょう

〈 家族の約束事 〉

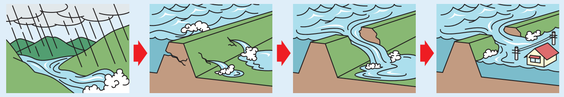
〈 ご近所での約束事 〉

※避難に援護が必要な方など地域で協力しましょう

洪水から身をまもる

洪水発生のメカニズム

● 洪水は、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。



大雨によって川の水が増え、水かさが上がり始めます。

堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

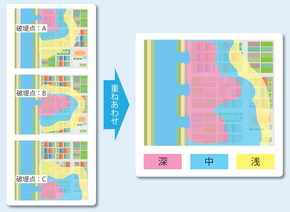
崩れた場所は一気に広がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

洪水浸水想定区域の考え方

● すべての破堤点（堤防が決壊すると想定したところ）について、どう氾濫し浸水するかを予想します。

● すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。

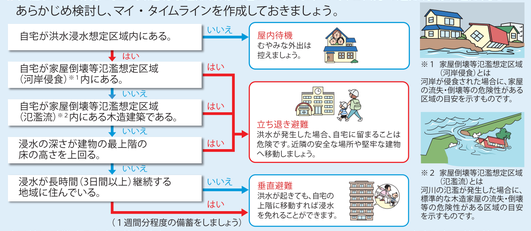
● 実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、徐々に深くなります。



状況に応じた避難行動

● 洪水の危険が迫った際には、川崎市から対象の地域に避難を呼びかけます。

● お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討し、マイ・タイムラインを作成しておきましょう。



※1 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）とは河岸が侵食された場合に、家屋の流失・倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。

※2 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）とは河川の氾濫が発生した場合に、標準的な木造家屋の流失・倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。

〈 屋外に避難するときの注意点 〉

・動きやすい服装を心がけ、靴はヒモで締められる運動靴を履くようにする。
※長靴は足を取られるため危険です。
・避難所に向かう途中で身の危険を感じた場合は、避難所に限らず近くの安全な場所や建物に一時的に避難をする。
・非常持出品（飲料水、食料、貴重品など）は、リュックサックなどに入れ、両手が使えるようにする。
・やむを得ず浸水している場所を移動する場合に備え、杖などを用意する。
※浸水している場所は、蓋の開いたマンホールや水路、側溝などへの転落の恐れ等があり、足元の安全確保が必要です。

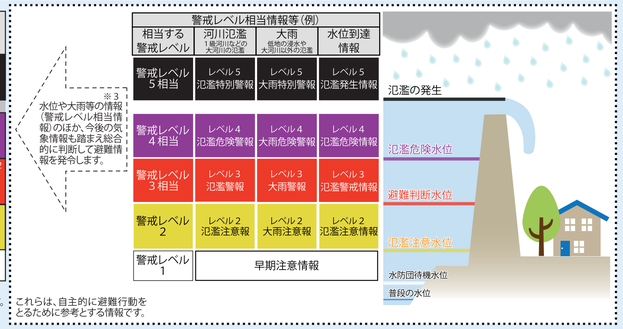
〈 助け合い（共助） 〉

・近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人、または旅行者など、一人で避難することが難しい方がいます。日ごろからご近所でコミュニケーションをとり、避難の際は、近隣の方々と声をかけあい協力しながら避難しましょう。

避難に関する情報

警戒レベル	状況	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	災害発生又は切迫	既に災害が発生又は切迫している状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保（川崎市が発令）※1
		＜警戒レベル４までに必ず避難！＞	
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難しましょう。 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示（川崎市が発令）
警戒レベル3	災害のおそれあり	避難に時間を要する人（ご高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難しましょう。 その他の人は避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難（川崎市が発令）※2
警戒レベル2	気象状況悪化	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	レベル２ 大雨注意報等（気象庁が発表）
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報（気象庁が発表）

※1　災害の状況を確実に把握できるものではないなどの理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。
※2　警戒レベル３は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。
※3　警戒レベル（避難情報等）と警戒レベル相当情報（水位や大雨等の情報）が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。



これらは、自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

雨の降り方と災害発生との関係　※地域特性により異なる場合があります。

1時間雨量	状　況	災害発生時のリスク
80ミリ以上	○息苦しくなるような圧迫感がある ○恐怖を感じる	○雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要
50～80ミリ	○ゴーゴーと滝のように降る ○傘は全く役に立たなくなる	○都市部では地下街等に雨水が流れ込む ○マンホールから水が噴出する ○土砂災害が起こりやすい
30～50ミリ	○バケツをひっくり返したように降る ○傘をさしていてもぬれる	○がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
20～30ミリ	○どしゃ降り ○傘をさしていてもぬれる	○側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
10～20ミリ	○ザーザーと降る ○跳ね返りで足元がぬれる	○この程度の雨でも長く続くときは注意が必要

※雨の降り方が強くない場合でも、長時間、広い範囲で雨が降る場合は、洪水の危険が増加します。

都市型水害について知る

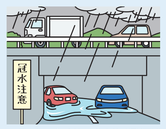
● 大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいため、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

〈 低地の冠水 〉
・低地や道路のアンダーパス※では冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。

〈 地下への浸水 〉
・地下が浸水すると、① 水圧でドアが開かない、② 一気に水が流れ込む、③ 外の様子が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

〈 中小河川の増水氾濫 〉
・都市の河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
・誤って転落しないよう、大雨のときには近づかないでください。

〈 過去の浸水 〉
・過去に浸水があった所は、大雨のとき、ふたたび浸水するおそれがあります。
事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。
・過去の浸水（浸水実績）については、川崎市防災ポータルサイトから確認できます。



※ アンダーパスとは、立体交差で掘り下げ式になっている道路のことです。

その他のハザードマップ

● 土砂災害、内水、津波のハザードマップもありますので、洪水ハザードマップとあわせて自宅の災害リスクを確認しましょう。

土砂災害ハザードマップ

● 土砂災害の注意が必要な区域等

川崎市　土砂災害ハザードマップ

内水ハザードマップ

● 内水により想定される浸水区域や浸水の深さ等

川崎市　内水ハザードマップ

津波ハザードマップ

● 津波発生時の浸水予測区域等

川崎市　津波ハザードマップ

日頃の備え

家庭備蓄の充実

● 災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。
このため、各家庭で最低３日間、出来れば７日間、自宅で過ごせる用意をしましょう。

〈 飲料水 〉・飲料水は１人１日３リットル必要です。
・ペットボトルなどで、家族全員の分、用意しておきましょう。

〈 食　料 〉・お米や乾麺、缶詰など、日持ちのするものをなるべく多く用意しておきましょう。
・普段の生活の中で十分に買い置きし、賞味期限が来る前に消費しながら定期的に買い足すことで、無理なく備蓄ができます。（＝ローリングストック）

〈 その他 〉・カセットコンロ（ボンベも忘れずに）、携帯トイレ（１人１日５回分）などを用意しておきましょう。

非常持出品チェックリスト　※下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせたものを用意しましょう。

水・食料	□ 飲料水　□ 携行食・非常食（ビスケット・缶詰など）
医療・衛生	□ いつも服用している薬　□ 救急医療品　□ 生理用品　□ 歯ブラシ・口腔ケア用品 □ 防塵マスク　□ 携帯トイレ
貴重品	□ 現金　□ 印鑑　□ 健康保険証・預金通帳（コピー可）
安全対策	□ ヘルメット・防災ずきん　□ 厚底の靴　□ 軍手
道具類	□ 携帯電話・充電器　□ 携帯ラジオ　□ 懐中電灯　□ 電池　□ 時計　□ 携帯カイロ □ ロープ　□ ライター・マッチ　□ ナイフ　□ 缶切り　□ 入れ歯・眼鏡など
衣類	□ 上着（防寒着）　□ 下着・靴下　□ 携帯レインコート
生活用品	□ ウエットティッシュ・ティッシュ　□ タオル　□ ごみ袋・ポリ袋
感染症対策	□ 体温計　□ アルコール消毒液　□ マスク

家庭などでできる浸水対策

● 側溝や雨水ますから雨水を集めています。ごみや落ち葉等が詰まると水が流れにくくなりますので、お近くの側溝や雨水ますの清掃にご協力をお願いします。

● 各家庭で早めに土のうを準備するなど事前に備えることで、浸水被害を軽減することができます。

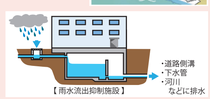
● 「雨水流出抑制施設」は大雨の時に雨水を一時貯留して下流へ少しずつ流す重要な施設です。普段から点検・清掃をしておきましょう。

家庭でできる浸水対策（土のう等による事前の備え）

川崎市　家庭でできる浸水対策

雨水流出抑制施設

川崎市　雨水流出抑制施設



【雨水流出抑制施設】

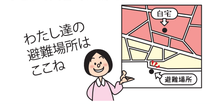
ハザードマップの使い方

① 自宅を見つけましょう

自宅に洪水が来ることや、がけ崩れが起こる可能性を確認しましょう。

② 避難する場所を確認しましょう

洪水や土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合は、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。



③ 安全な避難経路を決めましょう

大雨の時に危険となる水路や橋、アンダーパス、浸水の危険性がある箇所や土砂災害警戒区域などの場所を確認し、避難経路を複数決めましょう。

④ 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

⑤ 家族で災害時の対応を話し合いましょう

大雨の際の行動について、家族と話し合い、災害時の約束事を決めましょう。

⑥ 学校やご近所で考えましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に援護が必要と思われる方については、みんなでできることを考え、避難の際に協力しましょう。

⑦ 我が家の防災メモを完成させましょう

風水害時に役立つ情報

川の様子に関するリアルタイム情報

● カメラ画像や水位・雨量等の情報を国土交通省・神奈川県・川崎市等のホームページで見ることができます。

川の防災情報（国土交通省）	川の水位情報（一般財団法人河川情報センター）	神奈川県雨量水位情報（神奈川県）	川崎市防災気象情報（川崎市）
川の防災情報	川の水位情報	神奈川県　雨量水位情報	川崎市　防災気象情報

川崎市防災ポータルサイト

● 市内の災害や被害情報、避難情報等のほか、マイ・タイムラインなど日頃からの備えに役立つ情報等を掲載しています。

川崎市　防災ポータルサイト

かわさき防災アプリ

● 災害時の緊急情報や避難情報等をプッシュ通知で受けられるほか、最寄りの避難所の案内や各種ハザードマップを見ることができます。

かわさき防災アプリ

メールニュースかわさき

● 市内の防災、気象、災害等の情報を配信します。配信を希望する方は、右の二次元コードから登録をしてください。

メールニュースかわさき

防災行政無線・防災テレホンサービス

● 防災行政無線とは、屋外にあるスピーカーから、市民の皆様に避難情報や防災気象情報をお知らせするものです。

● 防災行政無線の放送内容は、電話でも聞くことができます（通常時は啓発放送が流れます）。
0120-910-174（通話料なし）　県内の一般加入電話・公衆電話及び一部のＩＰ電話から
044-245-8870（通話料あり）　携帯電話、県外の一般加入電話・公衆電話から

その他

● 国土交通省京浜河川事務所のホームページで、洪水浸水想定区域や氾濫シミュレーションを確認できます。また、気象庁のホームページで警報・注意報発表の詳細状況を確認できます。

● Ｔｗｉｔｔｅｒ（@kawasaki_bousai）、ＬＩＮＥ（@kawasakicity）、緊急速報メール、地上デジタル放送、ケーブルテレビ、かわさきＦＭ（79.1MHz）でも、情報を発信します。

お問い合わせ先

洪水ハザードマップに関すること	建設緑政局道路河川整備部河川課	044-200-2902
避難に関すること	危機管理本部	044-200-3682
	高津区役所危機管理担当	044-861-3147
内水ハザードマップに関すること	上下水道局下水道部下水道計画課	044-200-0104
土砂災害ハザードマップに関すること	まちづくり局指導部宅地企画指導課	044-200-3035

緊急連絡先等

警察署	110
消防署	119
災害用伝言ダイヤル	171

令和８年５月作成